

中 寒二（なか・かんじ）

1、プロフィール

詩人。「北方人間」創刊。「交替詩派」・「日本詩潮」・「羊眼」等の同人を経て、「表現派」を発行。詩誌「木々」同人。昭和 46 年詩集『尻取り遊び』で第 12 回土井晩翠賞受賞。

<生没>

1930(昭和5)年9月30日～2003(平成15)年11月16日

<代表作>

詩集『対話の要素』『尻取り遊び』『発生』『バンコク』、
詩論集『表現の行為』、
散文集『旅の光と影』

<青森との関わり>

八戸市鮫町に生まれる。昭和 43 年から詩誌「表現派」を発行。昭和 58 年から平成 10 年まで青森県詩人連盟会長。

2、作家解説

本名は中村福治。昭和5年9月30日、八戸市鮫町林通りに生まれる。昭和 26 年3月に八戸市立商業高等学校を卒業(中退)。美術の教員免許を取得し、美術・国語を担当して八戸市内の中学教諭になる。昭和 58 年3月に退職し、北方社工房を始める。

昭和 26 年9月に作家の左館秀之助と詩誌「北方人間」を 32 年まで発行。昭和 33 年6月に左館と文芸誌「短編作家」を 34 年7月まで3号発行(小説を執筆)。昭和 38 年2月に文芸誌「北原」を主宰。昭和 43 年3月に詩誌「表現派」を主宰(平成 12 年現在 119 号)。その間に「交替詩派」・「日本詩潮」・「羊眼」・「朴」・「木々」等の同人となって作品を発表。

詩集は昭和 27 年に『北に咲く花』(北方人間社)、36 年に『対話の要素』(思潮社)、46 年に『尻取り遊び』(表現派詩社)、49 年に『発生』(表現派詩社)、54 年に『まぬけな牛』(表現派詩社)、55 年に『バンコク』(表現派詩社)、59 年に『南方巡礼』(表現派詩社)、62 年に『あこがれ』・『祭り』(表現派詩社)、平成3年に『雨季中寒二詩選集』(青森県文芸協会出版部)、6年に『乾河道』(近代文藝社)がある。詩論集は昭和 62 年に『表現の行為』(表現派詩社)がある。散文集は昭和 54 年に『海を見に行く』(文芸協会出版)、63 年に『旅の光と影』・平成2年に『ふるさとの歳時記』・5年に『美しきイスラム』・8年に『大晦日の雪』・11 年に『寒さの夏』・12 年に『冷夏のできごと』(表現派詩社)がある。著作にもあるように、毎年1~3回、アジア・アフリカを中心に旅をした。

昭和 47 年に八戸市文化奨励賞、48 年に青森県芸術文化奨励賞、58 年に第4回青森県文芸協会賞、平成 11 年に青森県芸術文化振興功労章を受賞。

昭和 58 年から平成 10 年まで、青森県詩人連盟会長。日本現代詩歌文学館評議員。

3、資料紹介

○『尻取り遊び』

図書

1971(昭和 46)年9月 20 日

190 mm × 132 mm

昭和 36 年から 46 年までの三十代の作品 33 編が収められている。表現派詩社で発行。言語の発生・起源にイメージを展開している詩集である。第 12 回土井晩翠賞を受賞する。タイトルにもなった『尻取り遊び』の最終行は「きみもまた 無名のほとりを歩きつづける。」